

# 令和7年度 鬼怒中学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す生徒像含む）

### (1) 基本目標

確かな学力，豊かな心，健やかな体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ。

### (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

○気力あふれる生徒 ○創造性を伸ばす生徒 ○心の豊かな生徒 ○進んで仕事をする生徒

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

### (1) 目指す学校像

- 活力に満ちた明るく，楽しい学校
- 互いを認め合い，思いやりのある学校
- 保護者・地域から信頼される学校

### (2) 目指す教師像

- 高い指導力と愛情をもって，生徒と向き合える教職員
- 生徒のよさを認め，伸ばす教職員
- 協調性に富み，責任感のある教職員

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

生徒を中心とした活力に満ちた明るく楽しい学校づくりを目指し，全教職員が和と協力，熱意，人間尊重の精神を基盤に『生きる力』を育む教育に取り組むとともに地域と連携・協力し特色ある学校経営を推進する。

### ○ (1) 確かな学力の育成

- ①「宇都宮モデル」を活用した授業づくりを行い，主体的に学習に取り組む態度を育成する。
- ②1人1台端末を積極的に活用し，「個別最適な学び」・「共働的な学び」の充実を図る。
- ③読解力や語彙力の向上を目指し，朝の学習を活用するなど，確実な定着を図る。

### (2) 豊かな心の育成

- ①生徒が「自分の良さや可能性」に気付くことにより自己肯定感の育成を図る。
- ②「特別の教科道徳」の授業を重視し，道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を養う。
- ③学校行事や体験活動，部活動等において，挑戦する心，諦めない心などのたくましさを涵養する。

### (3) 安全指導の徹底と健康体力の増進

- ①交通安全の指導の徹底を図る。 ②望ましい食習慣の定着を給食や授業を通して指導の徹底を図る。

### ○ (4) 特別支援教育の充実

全教職員が共通理解を図り，配慮が必要な生徒に対して組織体制を確立し連携協力して指導する。

### ○ (5) 小中一貫教育の推進

- ①鬼怒地域学校園教育ビジョンに基づき，小中が連携して児童生徒の育成を図る。
- ②課題を共有し，学習面・生活面において，発達の段階に応じた指導を継続的に行う。

### ○ (6) 家庭・地域との連携強化

- ①教職員と保護者による協働の促進を図る。 ②地域社会に貢献できる生徒を育成する。

### (7) 教職員の健康安全管理と資質の向上

- ①「業務改善の取組」と「勤務時間を意識した働き方」を更に推進し，令和9年度末までに月の時間外在校等時間が80時間を超える教職員「0」を目指す。
- ②各自が課題を意識し，教育のプロとしての自負と責任をもちコンプライアンスを遵守する。
- ③学びあいの精神を持ち，「一人一授業」や教科部会を充実させ，授業力の向上を図る。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

自分でよく考え 未来に向かって たくましく生きる子供の育成

#### 4 教育課程編成の方針

- (1) 地域や施設設備，教員構成及び生徒の実態，発達段階や特性等を十分に配慮し編成する。
- (2) 基本的な「学び方」の習慣を身に付けさせるため，教科における学習指導はもとより，道徳や特別活動総合的な学習の時間等を含め教科横断的な視点で，意図的・計画的に指導を行えるように編成する。
- (3) 好ましい人間関係の醸成，基本的なモラルや社会生活上のルール習得，他者と協力して，よりよい生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育成するため，道徳や特別活動を効果的に展開できるように編成する。
- (4) 他者に対する思いやりの心や，不正を絶対に許さないという心，さらには良いことを進んで行おうとする意欲を，全教育課程で育て，生徒自身の心に「いじめに対する抑止力」を付けさせる。
- (5) 学習指導要領改訂の方向性である

##### 【何を学ぶか】

○各教科等で育む資質・能力を明確化し，目標や内容を構造的に示す。

##### 【どのように学ぶか】

○主体的・対話的で深い学びの視点から学習過程を改善する。

##### 【何ができるようになるか】

○新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実を図る。

を踏まえ，より良い学校教育を通じてより良い社会を創るという目標を共有し，社会と連携・協働しながら，未来に生き，未来の担い手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラムマネジメント」の実現に努める。

#### 5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
  - 教職員の「最大限の助け合い」による学年，学級及び特別支援学級の経営
    - ・情報の積極的な発信
    - ・家庭，地域との連携
- (2) 学習指導
  - ・「宇都宮モデル」を活用した授業づくりによる授業力の向上
  - 読解力・語彙力の向上を目指す継続的な取組
- (3) 児童生徒指導
  - ・○「自己肯定感」の育成や「たくましさ」の涵養に向けた指導力の向上
  - ・自主的な活動の推進
  - ・組織的な対応，素早い対応
  - ・不登校対策の充実
  - ・「当たり前のことを当たり前に行える生徒」の育成
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
  - ・運動の励行
  - 健康管理と健康の増進
  - ・望ましい食習慣の定着
  - ・安全な生活

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 生徒は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 生徒の肯定的回答 75%以上</p>	<p>① 学習内容の定着を目指し, 問題演習を多く取り入れる。特に苦手な単元について個別の課題に取り組ませる。</p> <p>② 授業で「学び合う活動」ができるように, ペア学習やグループ学習など互いの意見を交換し, より深い理解につながるような授業を工夫する。</p> <p>③ 「社会とのつながり」を意識した授業を心がけ, 学習内容がどのように活かされているか考える授業に取り組む。</p> <p>④ タブレット端末を始めとした ICT 機器を積極的に活用した学習の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 86.1%で数値指標を 6.1 ポイント上回った。また, 生徒の肯定的回答は 92.2%で 17.2 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 学習内容の定着を目指し, e ライブラリなども活用した問題演習を多く取り入れる。苦手な単元については個別の課題に取り組ませる。</p> <p>② 授業において「学び合う活動」ができるように, ペア学習やグループ学習などを取り入れ, 互いの意見を交換しより深い理解につながるような授業を工夫する。</p> <p>③ 「実生活との関わり」を意識した授業を心がけ, 学習内容がどのように活かされているか考える授業を取り入れる。</p> <p>④ ICT 機器を有効・継続的に活用した学習の充実を図る。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 生徒は, 思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 教育活動全体を通じて, 他者を思いやる道徳的実践力の向上を図るとともに, 道徳科の授業を要として, 対話的, 体験的な学習活動を通じて, 人間愛を育てる。</p> <p>② 地域の行事や清掃等のボランティア活動を通して, 社会の一員としての自覚と豊かな心の育成を図る。</p> <p>③ 読書活動を通じて, 様々なジャンルの本に触れることで豊かな感性を育む機会の充実を図る。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が 94.4%で 14.4 ポイント, 生徒の肯定的回答は 94.6%で 4.6 ポイント, 共に数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 教育活動全体を通じて, 他者を思いやる道徳的実践力の向上を図る。特に, 道徳科の授業を重視し, 道徳的な判断力, 心情・実践意欲と態度を育てる。</p> <p>② 地域の行事や清掃等のボランティア活動を通して, 社会の一員としての自覚と豊かな心の育成を図る。</p> <p>③ 読書活動を通じて, 様々なジャンルの本に触れることで豊かな感性を育む機会の充実を図る。</p>

	<p>A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p><b>【数値指標】</b>          教職員の肯定的回答                            70%以上          生徒の肯定的回答                            80%以上</p>	<p>① 学校生活の中で、目標達成を意識できる取組を実践し、認め励ます支援を行う。</p> <p>② キャリア教育やキャリアパスポートの教職員への周知を積極的に行い、生徒がこれまでの自分を振り返りながら将来への展望がもてるようにする。</p> <p>③ 「職業について学ぶ」(1年),「社会体験学習」(2年),「自己の生き方について考える」(3年)を通して、自己のキャリア形成に必要な能力や態度の育成を図る。</p>	<p><b>【達成状況】</b>          教職員の肯定的回答が <b>88.9%</b>で 18.9 ポイント、生徒の肯定的回答は <b>88.1%</b>で 8.1 ポイント上回った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b>          ① 学校生活の中で、目標を達成できる取組を実践し、認め励ます支援を行う。</p> <p>② キャリア教育やキャリアパスポートの活用を教職員へ積極的に行い、生徒がこれまでの自分を振り返りながら将来への展望がもてるようにする。</p> <p>③ 「職業について学ぶ」(1年),「社会体験学習」(2年),「自己の生き方について考える」(3年)を通して、自己のキャリア形成に必要な能力や態度の育成を図る。</p>
<p>1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p><b>【数値指標】</b>          教職員の肯定的回答                            80%以上          生徒の肯定的回答                            90%以上</p>	<p>① 生徒に健康や安全に気を付けて生活するというはどうかを教科指導と関連付けて指導する。</p> <p>② 睡眠時間を確保するために、スマートフォンやゲーム等の使用の仕方について、家庭と連携を図って指導する。</p> <p>③ 交通ルールや地域の安全指導を徹底する。</p>	<p><b>【達成状況】</b>          教職員の肯定的回答が <b>86.1%</b>で 6.1 ポイント上回った。しかし、生徒の肯定的回答は <b>89.7%</b>で 0.3 ポイント下回った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b>          ① 生徒に健康や安全に気を付けて生活するというはどうかを教科指導と関連付けて指導する。</p> <p>② 睡眠時間を確保することや朝食をきちんと摂ることについて、家庭と連携を図って指導する。</p> <p>③ 交通ルールや地域の安全指導を徹底する。</p>
<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p><b>【数値指標】</b>          教職員の肯定的回答                            80%以上          生徒の肯定的回答                            75%以上</p>	<p>① 学校行事や地域行事等への参加後に振り返りを実施し、生徒自身が活動でできるようになったことや新たに感じたことなどを振り返るようにする。</p> <p>② 学級活動や道徳科の授業等を中心に学校教育のあらゆる場面をとらえて、仲間と協力することの大切さや生活をよりよくするために自分でできることなどを考えられるようにする。</p> <p>③ 自己肯定感を高めるため、地域活動へのボランティア参加などを推奨し、学校だけでなく地域の一員としての自覚と自信を身に付けさせる。</p>	<p><b>【達成状況】</b>          教職員の肯定的回答は <b>86.1%</b>で 6.1 ポイント、生徒の肯定的回答は <b>91.6%</b>で 16.6 ポイント上回った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b>          ① 学校や地域行事等への参加後に振り返りを実施し、生徒自身ができるようになったことや新たに感じたことなどを振り返るようにする。</p> <p>② 学級活動や道徳科の授業等を中心に学校教育のすべての場面をとらえて、仲間と協力することの大切さや生活をよりよくするために自分でできることなどを考えられるようにする。</p> <p>③ 自己肯定感を高めるため、地域活動へのボランティア参加などを推奨し、学校だけでなく地域の一員としての自覚と自信を身に付けさせる。</p>

<p>2- (1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進</p>	<p>A 6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① ALTを積極的に活用し、インタ ビューやプレゼンテーションなど を行い、コミュニケーションの場面 を多く設定する。</p> <p>② 生徒が英語を使用する場面や状 況、目的についても適切に設定し、 英語を発話する機会を多くする。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 70.0%で、数値 指標を 15.0 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① ALTを積極的に活用し、インタビ ューやプレゼンテーションなどを取 り入れ、コミュニケーションの場面を 継続的に設定する。</p> <p>② 生徒が英語を使用する場面や状況、 目的についても適切に設定し、英語を 発話する機会を多くする。</p>
	<p>A 7 児童生徒は、宇都宮の 良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 総合的な学習の時間（宇都宮学） において、宇都宮の歴史や風土・産 業・文化財について副読本やタブレ ットを使用して調査・研究を行い、 宇都宮の良さを認識させる。</p> <p>② 「鬼怒中学校地域協議会やP T A」との連携を図り、学区内（御幸 地区・御幸ヶ原地区・平石地区）の 歴史や良さについて学ぶ機会を設 ける。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 86.5%で、数値 指標を 6.5 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 総合的な学習の時間（宇都宮学）に おいて、宇都宮の歴史や風土・産業・ 文化財について副読本やタブレット を使用して調査・研究を行い、宇都宮 の良さや魅力を認識させる。</p> <p>② 「鬼怒中学校地域協議会やP T A」 との連携を図り、学区内（御幸地区・ 御幸ヶ原地区・平石地区）の歴史や良 さについて学ぶ機会を設ける。</p>
<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 生徒は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① AIドリルの利用や授業中の調べ 学習などで、積極的に Chromebook の活用を図る。</p> <p>② 各教科の年間指導計画をもとに、 授業での学習の広がりや深まりを デジタル教材だけに頼らず、図書資 料の活用も図るようにする。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が 78.4%と数値指 標を 11.6 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① AIドリルの利用や授業中の調べ 学習などで、積極的に Chromebook の 活用の充実を図る。</p> <p>② 各教科の年間指導計画をもとに、授 業での学習の広がりや深まりを目指 し、デジタル教材と図書資料を状況に 応じて使い分けるようにする。</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 70%以上</p>	<p>① 教科横断的授業の実践、総合的な学習の時間、また生徒会活動を中心とした委員会活動などの教育活動、フードパントリーに「持続可能な開発目標(SDGs)」を関連づけ、「持続可能な社会」への興味・関心を高める。</p> <p>② 各教科の授業、学校行事などで環境・福祉・人権等を取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が74.1%と数値指標を4.1ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 教科横断的な授業の実践や総合的な学習の時間、委員会活動などの教育活動、フードパントリーなどに「持続可能な開発目標(SDGs)」を関連づけ、「持続可能な社会」への興味・関心を高める。</p> <p>② 各教科の授業、学校行事などで環境・福祉・人権等を取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 学年会や教育相談部会の中で、支援が必要な生徒についての情報の共有を行い検討する。</p> <p>② 担任は個別の支援計画を作成し、具体的な支援を共有し実践していく。</p> <p>③ 教室での具体的な支援の方法や具体的な教材、教具について研修する機会を設ける。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は94.4%と数値指標を0.6ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 学年会や教育相談部会の中で、支援が必要な生徒についての情報の共有を行い検討する。</p> <p>② 担任は個別の支援計画を作成し、具体的な支援を共有し実践していく。</p> <p>③ 特別支援コーディネーターを中心に校内研修を計画し、適切な支援の方法について研修する機会を設ける。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上 生徒の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 75%以上</p>	<p>① 学校全体で年間を通していじめは許されないという強い気持ちを育て、啓発していく。</p> <p>② いじめゼロ集会やいじめアンケート、教育相談、道徳の授業等を活用し、効果的に指導していく。</p> <p>③ 学校の取組を積極的に保護者や地域へ情報発信する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%で5.0ポイント、生徒の肯定的回答は98.1%で8.1ポイント、共に数値指標を上回った。また、保護者の肯定的回答も78.8%で3.8ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 学校全体としていじめは許されないという強い気持ちを育て、啓発していく。</p> <p>② いじめゼロ集会やいじめアンケート、教育相談、道徳の授業等を活用し、継続的・効果的に指導していく。</p> <p>③ 学校の取組を積極的に保護者や地域へ情報発信する。</p>

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p><b>【数値指標】</b>          教職員の肯定的回答          90%以上          保護者の肯定的回答          85%以上</p>	<p>① 担任だけで悩まず、変化が見られた場合、必ず学年に報告相談するようにする。</p> <p>② 1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問、3日休んだら小ケース会議を行うようにする。</p> <p>③ Google Classroom や meet 等の活用方法について検討する。</p>	<p><b>【達成状況】</b>          教職員の肯定的回答が 97.2%で 7.2 ポイント、保護者の肯定的回答は 90.0%で 5.0 ポイント、共に数値指標を上回った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b>          ① 担任だけで悩まず、生徒の様子に変化が見られた場合、必ず学年に報告相談するようにする。          ② 1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問、3日以上休んだら小ケース会議を行うようにする。          ③ Google Classroom や meet 等の活用を検討する。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p><b>【数値指標】</b>          生徒の肯定的回答          85%以上</p>	<p>① 学校行事や各委員会との連携を図りながら、生徒が自主性をもって生徒会活動に取り組むことができるよう、指導助言を行う。</p> <p>② 学校行事等の企画運営に生徒の意見を取り入れ、学校全体で学校行事に臨むことができるよう、生徒の活動の場を設定するなど、自発的な活動の活性化を図る。</p>	<p><b>【達成状況】</b>          生徒の肯定的回答が 96.5%で、数値指標を 11.5 ポイント上回った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b>          ① 学校行事や各委員会との連携を図りながら、生徒が自主性をもって生徒会活動に取り組むことができるよう、指導助言を行う。          ② 学校行事等の企画運営に生徒の意見を取り入れ、主体的に学校行事に臨むことができるよう、生徒の活動の場を設定するなど、自発的な活動を推進していく。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p><b>【数値指標】</b>          生徒の肯定的回答          90%以上</p>	<p>① 個に応じた指導を心掛け、授業では目標をいくつか設定し、自分に合った課題に取り組めるよう指導・支援していく。</p> <p>② 研究授業を取り入れることで、指導方法の充実を図るとともに、評価方法など研修を適宜取り入れる。また、教員の指導力向上を図る。</p>	<p><b>【達成状況】</b>          生徒の肯定的回答が 94.3%で、数値指標を 4.3 ポイント上回った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b>          ① 個に応じた指導を心掛け、授業では目標をいくつか設定し、自分に合った課題に取り組めるよう指導・支援していく。          ② 一人一授業公開を行うことで、指導方法や評価方法について互いに学び合い、教職員の指導力向上を図る。</p>

<p>4-(2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 教職員の経験年数等を考慮して校務分掌を割り振る。</p> <p>② 校務運営委員会や職員会議、学年主任会議、学年会議を通して、全教職員の共通理解を図る。</p> <p>③ 校内だけでなくPTA、地域協議会、他の関係機関と連携して、生徒の健全育成に努める。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 86.1%で、数値指標を 3.9 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 教職員の希望や経験年数等を考慮して校務分掌を割り振り、協力して活動に取り組めるようにする。</p> <p>② 校務運営委員会や職員会議、学年主任会議、学年会議を通して、全教職員の共通理解を図る。</p> <p>③ 校内だけでなくPTA、地域協議会、他の関係機関と連携して、生徒の健全育成に努める。</p>
<p>4-(3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 70%以上</p>	<p>① 教職員に負担とならないよう、教育課程を編成したり、日課を改善したりする。</p> <p>② ミライムの出退勤管理を利用し各自の勤務時間を意識させる。</p> <p>③ 会議が重ならない、長引かないよう、効率のよい会議を心掛ける。</p> <p>④ 校務の見直しや学校行事の見直し、PTA活動の見直しなどを行い、教職員の負担感の軽減に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 83.3%で、数値指標を 13.3 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 教職員の負担にならないような教育課程を編成したり、日課を改善したりする。</p> <p>② ミライムの出退勤管理を利用し、各自の勤務時間を意識させる。</p> <p>③ 勤務時間内に会議が終了するように、効率のよい会議を心掛ける。</p> <p>④ 校務の見直しや学校行事の見直し、PTA活動の見直しなど、教職員の負担感の軽減に努める。</p>

<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 小学校と連携を図り、学力向上部会、生活支援部会、健康安全部会の取組について検討し、計画的に実施する。</p> <p>② 組織や計画の見直しを図り、学力向上、不登校対策、健康安全の充実に向けた連携、協働を図る。</p> <p>③ 小学校への乗り入れ授業の充実を図り、小中学校間の交流を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が <b>83.3%</b>で、数値指標を3.3ポイント上回った。また、保護者の肯定的回答は <b>88.9%</b>と8.9ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 小学校と連携を図り、学力向上部会、生活支援部会、健康安全部会の取組について検討し、計画的に実施する。</p> <p>② 組織や計画の見直しを図り、学力向上、不登校対策、健康安全の充実に向けた連携、協働を図る。</p> <p>③ 小学校への乗り入れ授業の充実を図り、小中学校間の交流を図る。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 地域住民の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 地域コーディネーターと連携し社会体験学習や社会人先生に聞く、幼稚園実習等で、地域人材の教育力を活用する。</p> <p>② 「鬼怒中学校地域協議会」と連携し、地域や企業と関わったことについて「鬼怒だより」や「学年だより」、「学級だより」、ホームページ等で積極的に情報を発信する。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が <b>100%</b>で、15ポイント、保護者の肯定的回答は <b>93.8%</b>で8.8ポイント、共に数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 地域コーディネーターと連携し、社会体験学習や社会人先生に聞く等で、地域人材の教育力を活用する。</p> <p>② 「鬼怒中学校地域協議会」と連携し、地域行事や企業との関わりについて、各種たよりやホームページ等で積極的に情報を発信する。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 地域住民の肯定的回答 90%以上 保護者の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 安全点検や施設利用者から環境改善情報を収集し、学校業務員や機動班と連携を図り、速やかな処置・対応を継続して行う。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が <b>100%</b>で10.0ポイント、保護者の肯定的回答は <b>94.7%</b>で4.7ポイント、共に数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>① 安全点検や施設利用者から環境改善情報を収集し、学校業務員や機動班と連携を図り、速やかな処置・対応を継続して行う。</p>

<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① ICT支援員と協力しながら、タブレット型パソコンの操作やアプリケーションの使い方に係る教職員のスキルアップを図る。</p> <p>② 授業のねらいを達成するために、効果的なICT機器の活用ができるよう、単元や題材の精選を行い、活用方法を検討する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が 97.2%で、数値指標を17.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① ICT支援員と協力しながら、タブレットの操作やアプリケーションソフトの使い方について教職員のスキルアップを図る。</p> <p>② 授業のねらいを達成するために、効果的なICT機器の活用ができるよう、単元や題材の精選を行い、活用方法を検討する。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 挨拶にも思いやりの心が表れることを継続的に伝え、自分から明るい挨拶をする態度と他者を思いやる心を養う。</p> <p>② 生徒会執行部や生活委員会等と協力し、あいさつ運動の充実を図り、その定着を図る。</p> <p>③ 相手に伝わるような時と場に応じた挨拶ができるよう、登下校時や授業・部活動等で継続指導する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 94.4%と14.4ポイント、生徒の肯定的回答が 97.8%で7.8ポイント、共に数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① あいさつにも思いやりの心が表れることを機会あるごとに伝え、自分から明るいあいさつをする態度と他者を思いやる心を養う。</p> <p>② 生徒会執行部や生活委員会等と協力し、あいさつ運動の充実を図り定着を図る。</p> <p>③ 時と場に応じたあいさつができるよう、登下校時や授業、部活動等で継続して指導する。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 70%以上 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 学校生活をより良くするためのマナーや校則について生徒が主体的に考え、行動する態度を養う。</p> <p>② 委員会活動を活性化し、更なる規範意識の育成や心のマナーの向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で30ポイント、生徒の肯定的回答が 96.8%で11.8ポイント、共に数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 学校生活をより良くするためのマナーや約束について生徒が主体的に考え、行動する態度を養う。</p> <p>② 委員会活動を活性化し、更なる規範意識の育成や心のマナーの向上を図る。</p>

学校独自 質問	<p>B3 生徒は、登下校の際、交通ルールやマナーを守っている。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上 地域住民の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 新入生を対象とした本校独自の自転車講習会を実施し、年度初めに交通安全教室を実施する。</p> <p>② PTAと教職員による登校と下校の「愛の一声運動」を実施しながら、通行する生徒に交通ルールやマナーについて実践的な指導を行う。</p>	<p>【達成状況】 地域住民の肯定的回答が100%で20ポイント、保護者の肯定的回答は92.5%で12.5ポイント、共に数値指標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 新入生を対象とした本校独自の自転車講習会を実施し、年度初めに交通安全教室を実施する。 ② PTAと教職員による登校と下校の「愛の一声運動」を実施しながら、通行する生徒に交通ルールやマナーについて実践的な指導を行う。</p>
	<p>B4 生徒は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 話す・聞く・考えるといった学ぶ力や学習に取り組む態度を育て、どの生徒も落ち着いて授業ができるような教室の学習環境を整える。</p> <p>② 疑問点を積極的に教師や友人に質問し、互いに学び合う学習態度を養う。</p>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答が96.8%で、数値指標16.8ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 話す・聞く・考えるといった学ぶ力や学習に取り組む態度を育て、どの生徒も落ち着いて授業ができるような教室の学習環境を整える。 ② 疑問点を積極的に教師や友人に質問し、互いに学び合う学習習慣を身に付ける。</p>
地域学校 園独自 質問	<p>B5 学習活動全体を通して、語彙力の向上が見られた。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 授業の中で学んだ知識を生かして、自分の言葉で発表したり、友達に説明したりする学習活動を積極的に取り入れる。</p> <p>② 朝の活動で、テキストなどを用いて語彙力と併せて読解力も身に付くよう支援する。</p>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答が61.1%で数値指標を18.9ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ① 授業の中で学んだ知識を生かして、自分の言葉で発表したり、友達に説明したりする学習活動を積極的に取り入れる。 ② 朝の活動で、テキストなどを用いて語彙力と併せて読解力も身に付くような学習を取り入れる。</p>

### 【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ほとんどの項目で数値目標は達成されている。また、昨年度の肯定回答と比べて割合が大きく向上した項目が多く見られ、特に教職員や保護者の結果から見られた。教職員一人一人の日々の心掛けや実践が、生徒の変容として感じられ保護者にも認められた結果であると考えられる。
- A1「生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」では、肯定的回答が数値指数を教職員が6.1ポイント、生徒が17.2ポイント上回った。各教科におけるタブレット端末の活用が定着してきたことに加え生徒のスキルも向上し、グループ学習などの学び合い学習がより一層の充実ができた成果であると考えられる。今後も、生徒による主体的な学びができるよう授業の工夫を行いながら、基礎学力の向上を目指して取り組んでいきたい。
- A3「生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」の項目では、生徒・教職員とも肯定的回答が数値指標を上回った。特に、教職員の割合は、88.9%と昨年度より大きく向上し、数値指標より18.9ポイントも高い結果であった。これは、学校行事において、生徒会を中心とした生徒の自主的な活動を積極的に取り入れ、企画・運営を生徒自らが行う場を設けてた成果であると考えられる。今後も生徒の自己肯定感を高めるような取組を積極的に

取り入れていきたい。

- ・ A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の項目では、教職員は昨年同様100%、生徒は昨年度より向上し98.1%であった。また、保護者の肯定的回答については、78.8%と教職員や生徒に比べると割合は低いが、昨年度より7.5ポイント向上した。学校での取組が家庭に少しずつ伝わり、ご理解していただいている成果であると考えられる。今後も継続してより一層の啓発をしていきたい。
- B5「学習活動全体を通して、語彙力の向上が見られた。」については、今年度も地域学校園の一つの指針として語彙力の向上を掲げていることから設定した設問であるが、教職員の肯定的回答が61.1%と昨年度より5.6ポイント低下し、数値指標より18.9ポイント下回った。朝の活動の時間に「読み方レスキュー」という教材を使用し語彙力の育成を図り、各教科の授業において語彙力向上の内容を意図的に取り入れているが、その効果が表れるにはまだ時間がかかり、今後も継続実施が必要な状態である。

## 7 学校関係者評価

- ・ A17の「小中一貫教育・地域学校園」の取組については、今年度も昨年度同様に保護者の肯定的回答が88.9%と高く、学校の取組を理解していただいていると感じる。
- ・ A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」の項目は、昨年度と比較して教職員が3.2ポイント下回っているが生徒は2.9ポイント上回っている。教職員の割合と生徒の割合に大きな違いが見られるが、学校の説明により、教職員は授業での活用状況で評価しているが、生徒は日常での活用状況で評価しているとの違いがあるため割合に大きな差が出るのが理解できた。
- ・ A11「いじめが許されない行為であることを指導している。」の項目では、昨年度と比較して地域住民の割合が6.0ポイント向上し91.7%であった。取組の発信や学校行事などへの参加により、学校の様子を見ていただきご理解を得ることができていると考えられる。
- 語彙力の向上のため鬼怒地域学校園共通で取組を行っているので、今後も継続して取り組み、さらに向上させてほしい。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

- ・ タブレット端末を利用した取組については今後も継続して進め、生徒の基礎学力向上につながるように工夫したい。
- ・ いじめや不登校に対する取組については今後も継続して進めていき、保護者の理解を得られるように、情報発信や啓発を定期的に行っていくたい。
- 語彙力の向上については、教科ごとに意図的な取組を行い、試行錯誤を繰り返しながら課題を検証し、今後の指導に生かしていきたい。
- ・ 教職員による朝の登校指導や保護者による毎日の下校指導である「愛の一声運動」を継続し、地域協議会など地域の方にもご協力をいただき、生徒の安全を見守っていきたい。
- ・ 地域の美化・緑化活動においては、今後も学校・保護者・地域が一体となり推進していく。特に、本校の特色であるフラワーロードの整備やあじさいの植栽、校内ピカピカクリーン大会などにおいては、地域協議会や保護者と協力しながら全校生徒が関わる行事として今後も継続して実施していき、本校と地域のシンボルとなるよう進めていきたい。
- ・ 自己肯定感や自己有用感を高めるために、今後も地域の体育祭や文化祭、小学校の運動会、フードパントリー（おやつカフェ）などへのボランティア活動の参加を積極的に推進していきたい。
- ・ 教育相談の充実を図り、教職員だけでなく関係諸機関との連携を強化しながら生徒と向き合っていけるようにし、不登校生徒を生まない学級経営を推進していきたい。
- 「小中一貫教育・地域学校園」に関する項目では、生徒の学習面や生活面に反映できる一貫教育の取組を小中学校で連携し、義務教育9年間で目指す児童生徒像を明確にし、鬼怒地域学校園の教育ビジョンである「自分でよく考え、未来に向かって、たくましく生きる生徒の育成」が実現できるように取り組んでいく。